



## 日常の景色にある SDGsを見つけてみる —その5

SDGsの17あるゴールの中には「安全な水とトイレを世界中に(ゴール6)」が設定されています。亀岡で暮らす私たちは、当たり前のように安全な水道水を利用することができるので、重要な課題だと思える人は少ないかもしれません。

しかし、国土交通省によると、世界の中で水道の水をそのまま飲める国は、日本を含めてたった9カ国しかなく、安心して水が飲めることは世界の常識ではないのです。\*

日本国内でも、老朽化した水道管を新しいものに更新したり、災害時に備えて耐震性のある水道管を設置したりと、安全な水を供給するために必要なことがあります。

亀岡の水道水は、桂川水系などの地下水を水源としており、厚生省(当時)が設置した「おいしい水研究会」によって「おいしい水」に選ばれています。市外からも評価を受ける亀岡市の水道水は、上下水道部の職員が水質の管理をして提供しています。また、亀岡市の水道水は、本年2月から隣の南丹市にも供給されており、ほかの地域との結びつきを考えるきっかけにもなります。



▲安心して飲める水は私たちの生活に欠かせない  
(撮影 = 江見彩香)

2022年の今日、蛇口をひねると当たり前のように出てくる水道水ですが、50年後、100年後の未来に暮らす亀岡市民も安心しておいしい水が飲めるようにするために、私たちにできることがないか一緒に考えてみませんか。

※国土交通省「平成30年版 日本の水資源の現況」  
第7章 水資源に関する国際的な取り組み  
[https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo\\_mizsei\\_fr2\\_000020.html](https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei_fr2_000020.html)

### 高木 超(たかぎ・こすも) 文章

▶ 慶應義塾大学大学院  
政策・メディア研究科 特任助教  
亀岡市参与 (SDGs アドバイザー)

### 江見 彩香(えみ・あやか) 写真

▶ 元ファインダー女子広報部  
女子学生による亀岡のPR隊  
“ファインダー女子広報部”  
(2018-2019) として活動。  
現在、プロのフォトグラファー  
として奮闘中!

